



学長メッセージ ～本学に関わる全ての皆様へ～

ここに「琉球大学統合報告書 2023」をお届けできることを、大変嬉しく思います。本報告書では、本学の財務情報に加え、特色ある教育研究活動等の取組状況や成果等の非財務情報も多く取り上げています。琉球大学の活動を少しでも広く理解いただくことに役立てば幸いです。

琉球大学は、多くの沖縄県民と海外の県系人らの熱意と関係者の尽力により、1950年に戦火で灰燼に帰した首里城の跡地に開学しました。開学以来、本学の姿は設置主体やキャンパス等の面では変化し続けていますが、地域に貢献する大学としての根幹は、微動だにしていません。開学当初より地域社会への貢献を基礎に据え、戦争によって荒廃した社会の復興を担い、新しい地域社会を支える人材を数多く輩出してきました。沖縄県の内外で活躍する9万人を超える卒業生・大学院修了生を送り出してきたことは、本学の誇りとするところです。

さて、今日、社会には大きな変化が求められています。すなわち、人類社会の存続可能性を考えると、大量の化石エネルギーを使う大量生産・大量消費・大量廃棄型の産業社会から、持続可能性、更にはウェルビーイングを重視する社会へと変わっていかねばなりません。本学が立地する琉球弧の島嶼域は、分散的で限られた物理的空間において、限られた資源を活用して持続的に存続・発展をする知恵“Island Wisdom”を培ってきました。その経験と特性を生かして、規模を追求することから脱却し、効率的な「コンパクトシステム」をつくり、それらを重層的にネットワーク化することによって地域経済を活性化させることが大事になっていると考えます。

このような考えのもと、本学は規模の比較的小さな沖縄県内の企業などの経営体とも連携し、そこでの人材のスキルアップ等を通じて企業・経営体の価値を高めることに貢献するとともに、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」として、新たな未来を切り拓くことのできる若い人材の育成・輩出に、引き続き全力で取り組んでいきます。

国立大学法人を取り巻く財政的な状況は厳しいものがあります。そのような中でも、いやそのような中にあるからこそ、DX（デジタルトランスフォーメーション）を通じて教育と学生支援・研究・医療・運営、そして働き方を大きく変革することを目指す「琉大トランスフォーメーション（RX）」推進プロジェクトを昨年度より開始しました。さっそく、様々な成果が得られつつあります。

例えば、これまで紙媒体で行っていた教職員の兼業手続は、手続を始めてから終わるまでに郵送期間を含めて2か月を要することもあったところを、学内処理のあり方自体を大きく見直して全面的に電子化したことで、圧倒的な簡素化・時間短縮（1週間程度）に成功しました。また、本学病院が「がん診療連携拠点病院」として取り組む県内の院内がん登録データの集計やベンチマーク分析を電子化によって大幅に効率化し、加えて分析内容を更に充実させたことで、沖縄県の医療計画への活用など新たな可能性が広がっています。

こうしたRXの取組を「楽しくチャレンジ」「まず実行」をモットーにして加速させるとともに、様々な工夫で財政基盤の充実・強化を図ります。また、2024年度末に西普天間地区に移転する本学医学部および病院を中核とする「沖縄健康医療拠点」の機能充実に取り組み、沖縄県内唯一の総合大学としての役割を積極的に果たしていく所存です。

引き続き、琉球大学へのご理解とご支援、そしてご協力をよろしくお願いいたします。

琉球大学長
西田 睦